



## たかが貧血、されど貧血

健康診断のとき、「貧血」の検査は、「特定健診」（いわゆるメタボ健診）を除き、多くの場合必須項目です。このとき、「貧血です 内科を受診してください」といわれたら、どうするでしょう？特に症状がなければ、仕事を休んでまで、医者にかかるとは思わないでしょう。いずれ治るだろうと考えて……。

しかし「たかが貧血、されど貧血」という言葉を忘れないでください。

貧血という言葉が「微熱」に置き換えてみましょう。微熱程度では、普通医者にはかかりませんね。さほど辛くないし通常数日で治りますから。ところが「歯痛」という言葉に置き換えたら、かなりの人が歯医者さんに行くと思います。放置すると痛みがどんどんひどくなることを知っているからです。

実は貧血というのは微熱と同じで、「病名」ではなくて赤血球が減っているという「病状」を示すものにほかなりません。ですからその「原因」を追求しなければ意味がないのです。微熱を調べてみたら、実は結核だったということが稀でないように、貧血に「癌」が隠れていることもあるのです。つまり「されど貧血」というわけなのです。歯が痛ければ、夜中は鎮痛剤で様子のみたとして

も、きちんと虫歯の治療をするのと同じように、貧血も医療機関にかかるべき病状なのです。貧血なら、レバーやほうれん草を食べれば治ると信じている人もいますが、これは貧血で鉄分が足りないということが証明されていれば、ある程度の有効性はあるでしょう。しかし何より大切なのは「なぜ、鉄分が不足したのか？」の原因を追究しなければ、本当の治療にはなりません。もし、大腸に癌があって、そこからじわじわと出血しているために鉄分が不足しているのだとしたら、レバーで貧血を治そうということが、いかに無謀なことかわかりでしょう。

貧血には、このように癌による失血性（鉄欠乏性）貧血だけでなく、赤血球が壊れてしまう溶血性貧血、ビタミンB<sub>12</sub>欠乏による貧血や、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、白血病、あるいは悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄繊維症などここに列挙できないほど原因が様々です。

したがって貧血と言われたら、「たかが貧血、されど貧血」という言葉を忘れずに、医療機関を受診されることをお勧めします。

【広報おかや 2009 年 3 月号掲載】